

楽しく笑って幸せな高齢者になろう!

大ケロ・源水地区

ご近所みんなで声かけ訓練

～認知症になっても安心して暮らせる大槌町を目指して～

第2回目となる「認知症徘徊模擬訓練」が10月29日、昨年度に引き続いて大ケロ・源水地区で開催されました。今年度は、認知症の人に限らず地区住民がご近所レベルで声をかけあい、安心して過ごせる地域づくりをめざす目的で、名称を「ご近所みんなで声かけ訓練」と変更して実施。あいにくの雨模様でしたが、地区住民や高校生など、50名に参加いただき、賑やかな雰囲気での訓練開催となりました。

寸劇「家族が行方不明になったら?」

地区民生委員、交番職員が出演する寸劇です。もし、行方不明者が発生したとき、家族は「大事なことにしたい」と思いがちですが、いち早く警察に相談することが大切だと伝えました。



みんなで考えよう「認知症の人への接し方」

認知症という病気は、他の多くの病気と同じように、最初に異変に気づくのは本人だと言われ、本人が不安や苦悩を抱えていることを前提に関わることが重要とされています。

声をかける際は自分ができる対応を考え、無理をしないで、警察や大槌町地域包括支援センター等、誰かに相談することが大切です。

実践 声かけ訓練「ロールプレイ」

設定文をもとに認知症の人、声をかける人になり切って声をかけあう訓練を行いました。

認知症の人が道に迷っている理由は様々です。それぞれの理由について、身を持って感じるきっかけになりました。

声をかける人は、認知症の人の言葉・想いに寄り添いながら、その想いの背景を読み取ることに難しさを感じていましたが、多くの方が「体験できてよかった」と話していました。



報告・意見交換会

参加者からは、様々な意見が出ました。

やさしく無理をしない声かけ、誰かへつなくことも大切。

「おかしいな」と思わなくても日頃の挨拶、声かけが大切。

世代間交流の機会になった。若い世代の参加が増えるといい。



今後、この取り組みを町内に広げ、参加した高校生の意見にもあった、「町全体で声をかけあえる体制」を、地域の皆さんと一緒に考えていきたいと考えています。

【お問い合わせ】長寿課 地域包括支援班 TEL 0193-42-8716

小中一貫教育だより



城山の風

大槌のすべての子に豊かな「育ち」と確かな「学び」を

大槌から新しい教育を発信

吉里吉里学園 学校公開研究会

豊かな育ちと確かな学びの実現～校舎併設型小中一貫教育校の特徴を生かして～をテーマに、吉里吉里学園小・中学部の学校公開研究会が開かれました。当日は、町外からの参加者80名ほどを加え、全体で200名を超える参加者がありました。

当日は、午前には小学部、昼食・全体発表を挟んで午後には中学部の授業公開を行いました。全体会の前のアトラクションは中学部の全生徒と小学部の代表による吉里吉



全体研究会

里太神楽の公演を行いました。

生徒たちの息のあった見事な舞に、会場からの大きな拍手が鳴りやみませんでした。



小学部1年生

分科会では、校舎併設型一貫教育を進める上での工夫や課題について活発な協議が行われ、改めて先進地域としての役割を感じさせられました。

行事検討分科会

◇郷土芸能伝承活動・防災教育 成果→地域文化の継承意識の向上、主体的判断による行動



中学部9年生

児童生徒指導分科会

◇教育相談体制の確立・体力向上 成果→自己肯定感の高まり、生き生きとした取り組み

学習指導分科会

◇大槌型学習スタイル(授業・短学活・家庭学習) 成果→学力の向上、主体的な学び

公開にあたって、環境整備等や諸準備にご協力いただいたPTAの皆様、地域の皆様、その他関係各位に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

文部科学大臣表彰受賞

平成29年度「地域学校協働活動」の成果

大槌町が進める「ふるさと科」を核とした学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動が認められ、平成29年度「地域学校協働活動」推進において大槌町教育委員会地域学校協働本部が文部科学大臣表彰を受けることになりました。



※お詫びと訂正:11月号の作文・絵画展入賞者紹介で掲載漏れや誤りがありました。正しくは、以下のとおりです。お詫びして訂正いたします。

【MOA 美術館奨励賞】 最優秀賞

中村海輝人さん (吉里学1年)



【金石大槌地区歯・ロポスター】 最優秀賞

前川緑希さん (吉里学7年)



【岩手県海の子絵画展】 最優秀賞

堀合美羽さん (吉里学9年)



【心の温もり作文】 優秀賞

駒林 陽夏さん (大槌学1年)
岩間ひらりさん (大槌学2年)
佐藤 茜さん (吉里学3年)
石川 琉海さん (吉里学5年)